な可能性があると思っています。

今でも忘れられない苦い思い出

今でこそ複数の事業をしているのですが、人材派遣事業の立上げの時は1人で全てをやっていました。面接～採用まで色々と仕事があるのですが、何十人という候補者の面接の会場設営、案内、面接までも全て1人でやっていました。

受付で候補者の受付を済ませた後に面接に進み、最後に今後の案内をするわけですが、全部同じ平松知也なんです(笑)。あれ?さっき入り口にいた方ですよね?とか会社の皆さんよく似ていますね!とか言われていたのですが、小さな会社と思われたらマズイと思い、必死で弁明をしていましたね(笑)。

この派遣会社を立ち上げた時には本当に色々なことがありました。派遣する方が約束の時間に来ないとかなんかは日常茶飯事でした。出勤するはずの派遣の方が無断欠勤で急に連絡が取れなくなり、派遣先の会社自体がややこしい強面の方ばかりで怒鳴り散らされたこともあります。「すぐ連れて来い!そやないと一切金なんか払うか!」と言われたのですが、その方とは全く連絡が取れません。電話を何回しても出ないので、家に行くしかないと住所から家を探し出しましたが家にもいない。でもどうしても連れて行かないといけないので待つしかない。。。張り込みの探偵のごとく待つことなんと5時間。。ようやく捕まえて連れていきましたが、その会社の始業時間が朝4時で3時から事務所前に立って待ちました(泣)。苦い思い出です・・・。

スタッフとその家族の希望に満ちた将来を創る

そこまで出来たのはやはり『スタッフの生活を守らないといけない』という想いだけなのです。仕事を通して一番幸せにしたい人は間違いなく、スタッフとその家族の皆様です。今こうして仕事が出来ているのもスタッフのお蔭で、彼ら彼女らがいなければ弊社は成り立つことはありません。その頑張ってくれている彼ら彼女らを支えてくれているのはその家族の皆様です。だから何としてもスタッフとその家族の希望に満ちた将来を実現するために頑張りたいですね。**ですのでスタッフに『ヤマトで働いて良かった』と言われると、自分の気持ちが伝わっているのが実感出来てすごく嬉しい気分になるのです。**

またとあるお客さまに言われた言葉で忘れられないものがあります。それは『他社とか他の誰かではなく平松さんと仕事がしたいんだよ!』と仰って頂けたこと。

これはとある案件に弊社が選んで頂いた時に言われたのですが、その案件は日本を代表するような大手企業も手を挙げていたプロジェクトだったのです。その頃の弊社は中小企業とも言えない一零細企業でした。**知名度も信用力もまだまだのなか、平松知也個人を信頼し選んで頂き言ってもらった一言、今でも忘れられません。**

平松知也個人として勝負したい

多角化経営をする上ですごく魅力的に感じていることがあるのです。それは常に『初心者』に戻れること。ある事業では意味を持つ肩書や実績も、新しい事業を始めた瞬間になんの意味もなくなる。経験も実績もブランド力も何も関係ない0からのスタートが新規事業を立ち上げるたびに経験出来る、この環境に私はすごくワクワクするのです!

私がすごく充実感を感じるのは、**こうした『平松知也』個人として見てもらえる環境に身を置くこと。社長だからとか実績がどうこうではなくて、『0の私』で勝負をすることが出来る。**だから常に自分を高め、様々なことに挑戦し続ける自分でいたいですね。

息子に伝えたいこと

私は今までに大きく分けると3つの経験をしてきました。1つ目が親から会社を引き継いだ後継ぎ経営者、そして2つ目に自ら会社を立ち上げた起業経営者、3つめがM&Aをして他社から来た社外からの経営者です。

この3種類の経営者を経験した上で言えることが、親から会社を引き継ぐ後継ぎ経営者が最も大変で会社運営も非常に難しく苦労も多くしました。後継ぎというと世間的には羨ましく見られがちで、下手をすると『何もしなくていい』くらいに思われますが、現実は全く違います。2世という立場に対する周囲の目は非常に厳しくある程度では全く認められないのです。先代を超えるのではなく、はるかに超えなければ世間は納得させられないというのを肌で感じました。

そんな状況になることは十分に分かった上で・・もし息子が継いでくれると言った時私が何をどうアドバイスするかと考えると・・・・

私自身が今仕事を出来ているのは全て『ご縁』なのです。人とのご縁が色々なことを可能にしてきました。**これまでを振り返って自分の能力があるとすれば、良い意味で楽観的で超ポジティブ思想なこと。ほかには人が好きでめったに嫌いにならないことかなと感じています。それが結果色々なご縁を引き寄せてくれました。**

そんなことを踏まえた上で息子にアドバイスするとしたら「世界中の誰よりも謙虚になりなさい。そして誰からも好かれなさい」になりますね。

プ全体が安定し、既存企業の拡大、新規事業への投資が可能になるのです。

こうした考えをするようになったのはやはり**私自身の経験からです。いきなり会社を継ぐことになった時弊社は物流会社だけでした。もしあの時に複数の会社があればあのような苦労をすることはありませんでした。**勿論あの経験が無いと分からないことも多いのですが今は沢山のスタッフを抱えておりますので、彼ら彼女らを守る意味でも多角経営はこれからも続けていきたいですね。トレンドや事業性を見て色々な判断をしますので、必要以上に好きな面白いといった感情は入れないようにしているのですが、待ちの商売は自分に向いていないと考えておりますので、それ以外であれば今後も様々